

新たなビジネスが生まれる場所に



(左から)地域おこし協力隊の渡辺 葉さんと、松田裕多さんと、ルートデザイン代表の津田賀央さん
＝森のオフィス

富士見町議会は、「森のオフィス」運営関係者との意見交換会を施設内で開き、町が進めるテレワークオフィスの現状と今後の課題について理解を深めました。出席者は森のオフィスを管理運営する合同会社「ルートデザイン」の津田賀央代表、それに、地域おこし協力隊の渡辺葉さん、松田裕多さんの3人。議会側は10人が参加しました。森のオフィスは2015年12月にオープンし、1年半が過ぎました。津田さんは「さまざまな課題を克服し、面白い成果が芽生え始めたところですよ」と自主的な取り組みの成果を強調しました。

「森のオフィス」運営関係者と意見交換

自主的な取り組みの成果強調 ルートデザイン 津田代表

ユーザーの中には、移住者もいれば、地元採用の人、東京と富士見を往復する人もいます。しかも個人事業主、会社員と立場はさまざまです。大切にしているポイントは「お隣さん同士でちゃんと会話ができること」。森のオフィスの住人、同居人、町の人、という意識を持ってもらう取り組みをスタッフ全員で行ってきました。

森のオフィスは高速ネットを使い快適に作業ができる場だが、「それは基本の『き』でしかない」と言います。それだけでなく、全国どこでもいい。「今は、リモートのできる環境があれば地方のどこへでも行ける。今後は賃貸で2〜3年ごとに動く時代になる。その時に、『でもやっぱり富士見がいいな』と思ってもらうためには、ここにいる理由を作る必要がある」。今すべきことは、「きちんと仕事を作っていくこと」であり、「ビジネスが生まれる場所としての取り組みを始めている」ということでした。

津田さんは「富士見で何かできそうだなという気持ちになってほしい。しかもそれが地元とのつながりの中で発展していければ素晴らしい」と意気込みを語りました。

(川合弘人)

森のオフィス 2階のシェアオフィスは8部屋。1社が昨年退去したが、新しい企業が入居。1階のコワーキングスペースはルートデザインの自主事業で運営し、約130人が登録している。中には東京から1回来ただけの会員もいるが、17〜18人が月会員としてほぼ毎日利用している。

議会傍聴者の感想

□歯切れのいい答弁が欲しい

3月6日に富士見町議会3月定例会の一般質問を傍聴しました。大きなパネルを使った議員の質問は傍聴席からも分かりやすく、手際よく考えをまとめ、述べられていたと思います。町長側の答弁は、もっと歯切れのいい答えが欲しいのに、されていなかったと感じました。次の議会も傍聴に参加したいと思っています。

広原 藤井 英行(62)

【編集後記】

5月1日は、4年間の議員任期の折り返し、後半に入りました。私たち議会広報編集委員会は申し合わせにより、任期が終了し、後半の委員に仕事を引き継ぎます。現委員で作製する議会だよりは、今回の148号が一つの区切りとなり、今後は私も含め3人が新人議員です。この2年間は手探りで編集作業を行ってきました。このため、東京都内や県内で開かれた議会だより編集のセミナーに参加し、勉強してきましたが、そこでは、全国の広報誌のレベルの高さを実感しました。議会だよりも議会改革の一環です。首長や執行部への追認ではなく、質疑・討論を通じた議員活動や、監視機能、批判機能をどのように発揮しているかなど、議会活動をありのままに伝え、町民の皆さんが主権者として、「町政を考える住民」になっていただけるよう今後も役割を果たしていきたいと思えます。

(議会広報編集委員長

川合弘人)

<富士見町議会へご意見をお寄せください>

【No.148】平成29年5月1日発行 発行：富士見町議会 / 編集：議会広報編集委員会

委員長：川合弘人 / 副委員長：矢島 尚 / 委員：五味高幸 小林 市子

〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町落合 10777

TEL：0266-62-9403 FAX：0266-62-9320 E-mail：gikai@town.fujimi.lg.jp